

ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- 民族間の疑惑と不信を除こう
- 世界を友愛と信頼の絆で結ぼう

高崎ユネスコ

<https://takasaki.gunma-unesco.com>


発行所

高崎ユネスコ協会

高崎市高松町35番地1

(〒370-8501)

高崎市市民部

防犯・青少年課内

電話 (027) 321-1297



定期総会会長あいさつ

戦後80年の節目

～創立56年目の高崎ユネスコ協会は今！～

今年は戦後80年の節目にあたる。この時期をとらえ、飢餓・悲惨・過酷・殺戮といった戦時下における人道無視の事実や体験談が、テレビや新聞などのメディア、関係諸団体による展示会・語る会等を通じて積極的に発信されている。その根底には、「人間を不幸に陥れる戦争は絶対に許されない」「人間の尊厳が無視された社会風潮を風化させてはならない」という強い思

いがある。

ユネスコの理念は「戦争は人の心に生まれるものであるから人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」である。また、民間ユネスコ運動の役割は、日本ユネスコ協会連盟の長期ビジョン「Peace for Tomorrow」(広げよう平和の心)に基づき、教育と文化を通じた国内外での平和構築(平和な世界の実現)や、世界が抱える諸課題の解決(持続可能な社会のための教育の実践)に貢献することである。

本協会(創立56年目)は、こうした理念を念頭に以下の取組を進める。

1 目標

- ・国際感覚を身につけ、持続可能な社会の実現を担う、心豊かで逞しい青少年の育成
- ・市民へのユネスコ理念の啓発

2 基本方針

ユネスコの理念と役割を基盤とし、小中学生の健全育成と市民への啓発活動を推進する。持続可能な社会の実現を基軸に、生涯学習の観点から活動の充実・発展を図る。高崎市・高崎

市教育委員会・学校・関係諸団体、日本ユネスコ協会連盟との密接な連携を進める。

3 活動の重点

- ・ユネスコ理念に基づく青少年の健全育成と市民への啓発
- ・持続可能な開発目標(SDGs)のためのユネスコスクール(ESD)の啓発
- ・世界遺産・未来(地域)遺産活動、世界寺子屋運動の推進
- ・平和を礎としたユネスコ活動による組織の拡充

4 具体的な活動

- ・野外体験活動、国際児童画展、ユネスコ作文応募に創意工夫を凝らす。
- ・ユース部充実をめざし、大学との連携や学生の意見を取り入れた活動企画・運営を行う。
- ・各種活動での紙ファイル手交やユネスコスクール揭示物等を通じて、SDGs・ESDの啓発に努める。
- ・世界の記憶や地域の民俗行事等に関する情報発信や連携に努める。
- ・書きそんじハガキ回収キャンペーンを通じて、寺子屋運動を充実させる。
- ・幼稚園・保育園等へのユネスコ活動の普及により、賛助団体・会員の拡充を図る。
- ・合同表彰式への高崎市国際交流協会、JICA東京(高崎分室)の後援実現に努める。

令和7年度今後の予定

- 11月29日(土) 野外体験活動(デイキャンプ)
キャンプパークジョイナス
- 12月14日(日) 第53回合同表彰式
高崎市文化会館大ホール
- 1月～2月 「書きそんじハガキ」キャンペーン



国際理解バス メキシコ大使館にて



マリア・トリージョ文化担当官による
メキシコ文化紹介(大使館)

ターに集合しました。出発式を終えると、スタッフを含む計43名を乗せたバスは最初の目的地メキシコ合衆国大使館へ。

車中ではクイズやメキシコの祭りの話、スペイン語講座などで盛り上がりつつ、バスは首都高渋滞で30分遅れに。マリア・トリージョ文化担当官は木村文化部アシスタントと男性職員の通訳を介し、スライドを短縮・修正してメキシコ文化を紹介してくださり、児童生徒は準備してあった「家紋」(事前送付したスライド使用)、習字、折り

第44回を迎えた国際理解バスは、防犯・青少年課事務局によって申込み方法のデジタル化が実現し、学校を通じた紙から個人申込みのロゴフォームへと移行しました。新方式での応募50名から抽選で36名を選出。7月12日(土)には中央公民館視聴覚集会室にてスライドを用いた事前説明会「参加者と保護者の集い」を開催しました。

令和7年8月21日(木)、真夏の太陽の下、早朝7時15分、小5・6年21名、中1・3年12名の33名(3名欠席)は青年セン



力作ぞろいの習字披露(大使館)



「世界各國猫のことわざ」(地球ひろば)

紙、高崎まつり、上毛かるた、お手玉・けん玉の披露、世界平和を祈願した特注「だるま」の全てを紹介することができました。質問の時間に積極的に手が挙がり、「グラシアス」の一言が添えられると担当官は大変喜ばれていました。

午後はJICA地球ひろばへ。エスニック弁当を味わい「J's Cafe」でフェアトレード製品を購入。続いて、ブータンから帰国したばかりのJICA海外協力隊・福井勇貴氏の案内でSDGsを学び、特別展「知らない私に出会う」を観覧。ゾーン2では壁に「世界各国猫のことわざ」が貼られており、タイの「猫にご飯をやったらトカゲを連れてくる」をめくると意味は「お礼がちよっと違う」。子ども達は笑いながら異文化を体

感じました。その他の4つのゾーンでも民族衣装試着や水運びなど自由に体験しました。続いて、ブータンでの3年間の異文化や柔道指導(柔道の普及、現地コーチの育成、代表選手の国際大会への引率など)体験が語られ、更に最近インフラ整備の支援だけでなくスポーツ指導の分野での派遣もあると紹介されました。それを受け児童生徒代表の「海外協力隊に興味を持ちました」とのお礼の言葉で研修は終わりました。

SDGsの日本の達成度は今年世界19位に後退。「目標2・飢餓をゼロに」未達成がその要因で、肉偏重の食生活と過度のやせ願望も背景にあるようです。また、ブータンは携帯電話普及により無制限でインターネット情報に氾濫すると幸福度ランキングは急降下。「物質的豊かさ」と幸せについて考えさせられました。

帰路は渋滞もなく全行程無事終了できました。保護者をはじめ関係者の皆様に深く感謝します。

世界が豊かになるためには

高崎市立鼻高小学校六年

後藤 聡太

第44回国際理解バスに参加し、世界が豊かになるためには多くの人々が協力をしていくことが



だるまの目入れは願いを込めて(大使館)

大切だと改めて僕は思いました。メキシコ大使館では、大使館の方がメキシコの文化を紹介してくれました。その中で、特に印象に残ったのは、無形文化遺産の「死者の日」です。亡くなった人を思い出して感謝をし、生と死を明るく祝う事がとてもユニークだと思いました。また、メキシコの料理でマンガーに唐辛子をかける食べ方は、日本では考えられない組み合わせなのでとても驚きました。ぜひ食べてみたいと思いました。

日本文化を紹介する場面では、「高崎だるま」を紹介しました。僕が住んでいる町ではだるま作りが盛んだからです。大使館の方に高崎だるまについて説明をした後、大使館の方に実際に目入れをしてもらいました。この

第44回国際理解バス

メキシコ合衆国大使館とJICA地球ひろば訪問
『タイのことわざ』『猫にご飯をやったらトカゲを連れてくる』——子ども達の異文化体験——
国際理解バス部長 松本千恵子



福井案内人からSDGsを学ぶ（地球ひろば）

高崎だるまはだるま職人さんに特別に作ってもらったものだったので、喜んでもらえてとても嬉しかったです。

JICA地球ひろばの体験ゾーンでは、世界各国のSDGsの達成状況がわかるブースがあり、日本の達成状況は2024年時点で167か国中18位でした。アメリカはSDGsがかなり達成されている国だと思っていたが、実際は46位であり、僕が思っていたよりも下でした。

ブータンでJICA海外協力隊として柔道を教えていた福井勇貴さんのお話の中で、開発途上国では「安全で安価な水が手に入らない」「学校に通えない」「電力を満足に使えない」「乳幼児の死亡率が高い」とい

ったお話を聞き、「現代の世界の国々はだいぶ豊かになったと思っていたけれど、まだまだ変わっていない国や地域もあるのだ」とショックを受けました。

僕は日本で不自由のない健康的な生活を送っていますが、それは決して当たり前ではないことなのだと思われました。

JICA海外協力隊は、開発途上国が抱える課題を解決するために、世界の約140の国や地域で「技術協力」「有償資金協力」「無償資金協力」という三つの協力を行っていることがとても素晴らしいと思いました。

僕はよく家の畑仕事を手伝ったり、用水路を作って水を流して遊んだりしているので、農業土木の分野が気になりました。将来は正しい知識や技術、経験を身につけ、開発途上国の農業土木の分野を発展させ、世界を豊かにし、SDGsを達成していくことに興味が出てきました。

僕は今回の体験を通して、国や地域が互いに信頼し合い協力をすると、工業や農業などが発展して全体が豊かになっていくと知りました。それは、三つの協力だけでなく、それを結びつけるJICA海外協力隊の方々の努力があるからだと思います。

今回の国際理解バスでの貴重な経験を活かし、豊かな世界を作っていけるよう意識して生活していきたいと思っています。



エスニック弁当は大好評（地球ひろば）

文化を学ぶということ

高崎市立倉渕中学校三年 岩津 陽咲

私は今回初めてユネスコ国際理解バスに参加させていただきました。午前中はメキシコ大使館を見学する予定だったので、「大使館っていったいどんなところだろう?」と不安な気持ちでした。しかし、実際にメキシコ大使館に行くと不安な気持ちはすぐに吹き飛びました。なぜなら、メキシコ大使館のスタッフの皆さんが私たちを快く受け入れてくださったからです。

メキシコ大使館では、スタッフの皆さんがメキシコの紹介スライドショーをしてくださいました。その中で一番衝撃的だったことは、マンガーに唐辛子を

かけて食べるということです。そのような食べ方があるとは知らなかったのですが、とても驚いたのと同時に、自分の常識がいかに狭く浅かったのかを痛感しました。

また、メキシコは世界遺産や文化遺産がたくさんあるということを知りました。その中の一つである「チチェン・イツツァ」に興味を持ちました。「チチェン・イツツァ」とは、メキシコのユカタン半島に残されたマヤ古典期最大の遺跡都市です。高さが24メートルもあるそうで、その雄大な景色をいつか自分自身の目で見てみたいと思いました。

日本の文化紹介で、私は折り紙で作った七福神を乗せた宝船を披露しました。3日間かけて制作した作品だったので、大使館の皆さんに喜んでもらうことが出来て嬉しかったです。

楽しかったメキシコ大使館を後にし、JICA地球ひろばに行きました。ひろばに入った瞬間に展示が目に入りました。建物の中は開放的で、受付の方の笑顔が素敵でした。昼食にはみんなでエスニック弁当を食べました。ジャークチキンが肉厚かつスパイシーで美味しかったです。また、初めて食べたサモサはもちもちした食感が一番美味しく感じました。

展示見学の時間では、海外の言葉や音を五感を使って楽しむ



参加者と保護者の集い

ことが出来ました。民族衣装の試着体験では、友達と褒め合いながら楽しく写真を撮ることが出来ました。国ごとにさまざまな民族衣装があり、衣装にも個性があることを学び、見ているだけで楽しかったです。また、福井さんの講話を拝聴しました。モンゴルに行つて柔道を教えるに行った話で、日本とモンゴルの人や文化の違いを詳しく話してくださいました。

今回さまざまな国の文化を知る中で、改めて、日本の良さを感じることが出来ました。日本の良い文化を世界に発信していくこと、世界各国の文化を知ること、国や人種などの垣根を越えて交流出来るのではないかと思います。素晴らしい経験をさせていただき、ありがとうございました。

第53回高崎ユネスコ 国際児童画展

令和7年10月17日～22日
於／高崎シティギャラリー

ようやく秋の気配が感じられるようになった10月17日から六日間、高崎ユネスコ国際児童画展が開催されました。市内84校の小・中・特別支援学校から、今年は1203点の作品が掲示され、六日間の展示期間中には4634人の方が来場されました。

小中学校の美術・図工主任の先生方を中心に24種類の特別賞が選定され、高崎ユネスコ協会長賞には、中央小学校一年の藤井健貴さんの作品「とのさまバ



会場の様子



受付のユース部(左2名)

ッタとぼうけん」と、塚沢中学校二年の山崎結菜さんの作品「机といす」がそれぞれ選ばれました。

その他、今年はJICA(国際協力機構)の協力で、エルサルバドル、チリ、パラグアイ、カンボジアの子どもたちの絵画作品が展示されたほか、「アジアの子」もたちの絵日記を通して考える持続可能な開発目標(SDGs)と題して取り組まれている、三菱アジア子ども絵日記フェスタ24か国の子どもたちの絵日記も展示されました。豊かな色彩と子どもらしい素直な言葉で書かれた絵日記から、アジアの子どもたちの日常生活の一端に触れることができました。

今回の国際児童画展にもユース部として、県立女子大と高崎経済大学のメンバーが受付業務に携わってくれました。土日の



三菱アジア子ども絵日記フェスタ



4か国の子どもたちの作品

最も混雑する日に、爽やかな笑顔で対応してくれたので、来場者は温かい気持ちで鑑賞されたことと思います。

期間中に来場者から二万八千九百四十五円もの募金にご協力いただきました。日本ユネスコ協会連盟の災害子ども教育支援募金に送らせていただきます。

スプリング

フェスティバル

ユネスコ活動の
普及にも一役

世界寺子屋運動推進委員会

委員長 佐藤 朋子

平成元年から開催されている高崎市の春の風物詩「スプリングフェスティバル」は、「育てよう市民の森」「自然との調和を考える」をテーマに、毎年4月29日(昭和の日)に群馬音楽センター周辺と高崎市庁舎前広場を会場に、盛大に行われています。ちなみに高崎ユネスコ協会は平成八年から参加をしています。

音楽センター周辺では、御茶席や手作り品・雑貨・地域特産物の販売等が行われています。

また、年々パワーアップしたダンスやパフォーマンスが披露され、華やかな雰囲気の中で、高崎ユネスコ協会は「青空テント村」の一角でバザーを行っています。

バザーへの参加にあたり、三月初旬の理事会でバザー出店の企画や綿密な計画が提案されます。その後、理事が会員に働きかけ、バザーの物品を依頼します。集まった物品等は、四月中旬に中央公民館に持ち寄り、理

事が仕分け作業と値段付けの作業を行っています。当日は衣料部、雑貨部、花木部に分かれ、会長をはじめ理事や学生ボランティアが総出で販売を担当します。年々提供していただく品物も増え、花木も立派な苗で、売り上げも上々でした。お客さんの中には毎年楽しみにしてくれている方もいます。

ここから出た収益は、必要経費を除いた残り四万八千三百八円を活動費に、募金箱に集まった募金は災害子ども教育支援募金として活用しています。

最後に高崎ユネスコ協会では、この活動をおしてユネスコの活動を市民の皆様に知っていただく機会としております。スプリングフェスティバルは、まさにユネスコ普及活動の一役を担っているというわけです。



バザーの様子

ようこそ！ ユースの みなさん

高崎ユネスコ協会のユース部に今年度も新しい仲間が入会しました。プレキャンプや国際児童画展などの行事で大活躍してくれています。

ユース代表のあいさつと、新入会のメンバーを紹介します。

「ユース代表として」

群馬県立女子大学
国際コミュニケーション学部四年

市田 優衣

群馬県立女子大学国際コミュニケーション学部4年の市田優衣と申します。

前年度からユースとして活動を始めて以降、高崎ユネスコ協会の様々なイベントに携わらせて



ユース代表 市田優衣さん

ていただいております。受付業務やユースの紹介展示を始めとする活動を通して、地域との交流や国際理解の重要性などユースメンバー自身も多くの学びや価値観を得ることができています。こうしたユネスコの活動の意義を多くの方に知っていただけるよう、積極的に活動に取り組んでまいります。

今年度は高崎経済大学から新たなメンバーが加わりユースの人数も増えました。

ユース一同、これから高崎ユネスコ協会の発展に寄与できるよう努めてまいります。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。



高崎経済大学
2年 熊見 悦志

高崎経済大学経済学部2年生の熊見悦志です。私は、高崎ユネスコ協会のメンバーになったばかりです。そのため、まだまだわからない部分が多いですが、一生懸命に活動に取り組んでいきたいと思っています。ボランティアを通して地域の方と交流し、自分の知見を広げていきたいです。これからよろしく願います。



高崎経済大学
1年 今井 杏都

高崎経済大学地域政策学部1年の今井杏都と申します。大学ではボランティアサークルに所属し、活動していく中でユネスコ協会のユースの活動に興味を持ち、参加させていただきました。ユースの一員として、精一杯活動に取り組んでいきたいです。



高崎経済大学
1年 大村 愛以

高崎経済大学地域政策学部1年の大村愛以と申します。ボランティア活動が好きで、これまで様々な活動に参加してきました。ユースでは、地域の方々と積極的に関わりながら交流を深め、楽しく活動していきたいと考えています。これまでの経験を活かし、地域に少しでも貢献できるよう努めたいと思います。



高崎経済大学
1年 南 咲那

高崎経済大学地域政策学部1年の南咲那と申します。地域の方々と交流して、高崎について知っていききたいと思い参加しました。高崎ユネスコ協会の活動を通して、地域の方々と交流したり、多くの経験をすること、自身の成長に繋がっていると思います。これから精一杯活動に取り組んで参りますので、よろしく願っています。

世界寺子屋運動 ・募金活動

高崎ユネスコ協会では、国際児童画展や国際理解展示会、合同表彰式等での募金と書きそんじはがきの寄付を、日本ユネスコ協会連盟の世界寺子屋運動や災害子ども教育支援金等に送金してきました。送金の方法は、書きそんじはがきは郵便局で金額の大きい切手に交換して、日本ユネスコ協会連盟にお送りしています。

市民の方々をはじめ、幼・保の園児さんや小中学校の児童生徒の皆さんからいただいた寄付は、昨年度の合計が金額にして三十三万九千七百七十七円になり、昭和63年から昨年度までの募金の実績が、合計千四百三十三万八千五百七十七円となりました。皆様からの温かいご支援にあため感謝申し上げます。



シリーズ表敬訪問⑦賛助団体

認定こども園ひよこプリスクール

園児数…172名

(2025年9月現在)

園長…今井伸江

開園…1973年

イキイキ! (元気で明るく健康に)・ワクワク! (友だちや先生と仲良く楽しく)・ドキドキ! (いろいろな事にチャレンジ)を教育・保育の理念とし、豊かな教育・保育環境の中、家庭ではできない様々な経験を通して一人一人の個性を大切に、豊かな創造力を育てるための保育を実践している。開園時間は、土曜日も含め午前七時から午後七時までとし、園長・副園長の他、主幹保育教諭・指導教諭・保育教諭という職員構成で教育・保育活動を行っている。園児は通常の活動の他、専門活動として、年齢に応じてスイミング・体育・英語・サッカー・ダンスに参加することができ、いずれも、専門の外部講師が指導にあたっている。5歳児は片品村での宿泊体験学習のプログラムもある。その他、子育て支援事業として、広く教育・保育についての相談事業を行っている。また、島野町に分園Te kute kute(てくてく)を開設している。



ひよこプリスクール

認定こども園エデューカール城之内

園児数…205名

(2025年9月現在)

園長…柳澤景子

開園…1975年

「やってみたい! やってみよう! できた! もう一回!」という自分を創るための活動を繰り返しながら、豊かな感性と自己肯定感の確立を目指している。県内では珍しい「モンテッソーリ教育」を本格的に取り入れており、各クラスにモンテッソーリ教育ディプロマを取得した教諭を配置し、子どもの興味・探求に答え、経験を積み重ねる環境の中で、6歳までに自己肯定感の確立を図れるよう努めている。2歳児までは、手を使い、二足歩行をし、言葉を使うという三つの機能を中心に活動し、3歳児からは、五感の感覚体験を数多く行う感覚教育、また言語教育、数教育、文化教育をモンテッソーリ教育の理論をもとに実践している。園外活動の「おにぎり遠足」やプロの講師による体操教室、スイミング教室、英国人講師による英語教室のほか、正装・普段着といった服装のマナーやセンスを身につける教育など、特色である。



エデューカール城之内

2025年度

関東ブロック・

ユネスコ活動

研究会in埼玉

次代につなげよう

平和の心

―戦後80年、今できることは―
をテーマにして9月27日(土)に深谷市民文化会館で開催された。

次代につなげるために、地域社会との関わり合いの中でいかにユネスコ活動を広げ高めていくかを、事例を通して共に考え、共に学び合う開催趣旨に相応しい研究大会であった。洪沢栄一翁の故郷の深谷で、オーブン・グイイベントとして、「血洗島獅子舞」が勇壮にして感動的な幕開けを披露して始まった。基調講演では、小柳光春氏(前深谷市教育長)の深谷市「ふるさと教育」の目指すものが心に沁みるほど伝わってきた。その学びが継続して受け継いでいく活動として「地域に根ざしたまちづくりの担い手になるために」という深谷地方ユ協の事例発表において具体的に顕著に表れていた。「子どもの暗唱(論語や詩)」の発表や「洪沢栄一翁ジュニアボランティアガイド」の養成の実践報告は圧巻であった。二つ目の事例発表は、群馬県

の太田ユ協の持続可能な「諸外国交換ユネスコ児童・生徒作品

展」―学校・PTA・地域との連携を通して―であった。多くのユ協が毎年実施して成果を上げていくが、その都度課題を洗い出し、改善を図りつつ存続していくところに国際理解や健全育成に貢献できるものと感じた。設立から開催して58回目という実績が物語るっている。

その他に小冊子「関東ブロックのユネスコ協会・クラブ」の作成は、記念として残るものであるとともに、活用役に役立てられるであろう。

また、午後6時から8時まで埼玉グランドホテル深谷で「交流会」が催され、140名程の参加者が集まって、素晴らしいフルート演奏のアトラクション(川上葉月フルート奏者)後、名刺交換やトークに花を咲かせた。

(文責 山崎貞幸)



関東ブロックユネスコ活動研究会in埼玉

「世界の記憶」

スマホをかざしてみてください



動画

リーフレット

あしがき

NHK朝の連続テレビ小説に出てくるあんばんまんの作者やなせたかしさんの言葉、「戦争には真の正義というものはないんです。しかも逆転する。それならば逆転しない正義っていうのは一体何か。」やなせさんは、お腹をすかせている誰に対しても分け隔てなく、敵も味方もなく自分の顔を食べさせてあげるあんばんまんに、逆転しない正義を投影していました。戦後八十年の今年、世界に目を向けると、ガザ地区では、空爆や飢餓で多くの子どもたちが亡くなっています。あの子たちを救うことはできないものか。なんとかしたくてもできないものか。なんとかし、世界中の多くの人が感じていることだと思います。世界史の中で、正義や善の名のもとに、いかに多くの殺戮が繰り返されてきたことか。有史以来、人は人として進歩してきていないのだらうか。人間の尊厳を尊び、平和な世界を望むには、政治的な駆け引きやディールなどではなく、ユネスコ憲章前文にあるように、今こそ、人類の知的及び精神的連帯が大切なのだと強く感じます。

(峯岸)